大分合同新聞

ワークシート

楽しもう・玖珠で謎解き

年　　組　　名前

① 「童話の里くす」が開催している「謎解きゲーム」。具体的にどうやって楽しむのかを記事から要約しましょう。

② 主催者はこのゲームを通じ、観光客に何をしてほしいのでしょう。記事から抜き出しましょう。

③ 同様のゲームを学校でやるとしたら、あなたならどんなクイズを作りますか。１問作ってみましょう。

玖珠巡り 謎解き

町内の歴史や名所テーマ

玖珠町帆足の道の駅「童話の里くす」が町内を舞台にした「謎解きゲーム」を開催している。町内の周遊性を高めて地域活性化につなげるのが目的。来年2月まで開催する予定。

玖珠町を舞台にした謎解きゲームの解答用紙。大人２種類と子ども１種類があり、全問正解には町民との交流が必須となる

地域との交流 楽しみながら

２ステージ舞台

道の駅は大分自動車道玖珠インターチェンジ出入り口の正面に位置し、年間約70万人（推計）が訪れている。ただ、駅内で買い物後、すぐに別の目的地へ向かう人が多く、梅木逸美駅長(67)は「もったいないと感じていた。何とか地域との交流につなげられないかと考えていた」と話す。

昨年秋から企画会議を定期的に開き、流行している「謎解きゲーム」に着目。スタッフが九州各地で実施されているイベントを視察し、玖珠町バージョンへ練り直した。

町内各所に謎解きゲームの問題が配置されている＝玖珠町帆足

ゲームは大人2種類、子ども1種類の計3種類を用意。豊後森城下町一帯と、玖珠町全体の2ステージを舞台としている。いずれも町内の歴史や名所などをテーマにしたクイズ10問程度を独自に設定した。商店や飲食店に行かないと分からない問題もあり、全問正解するには町民との交流が必須となる。

企画者の一人で駅従業員の山口知美さん(43)＝日出生＝は「町民とのコミュニケーションを取りながら、楽しんでゲームに挑戦してほしい」と話している。

参加無料。駅で用紙をもらい、解答を記入して再び駅に提出する。解答期限はない。参加者全員にポストカードを贈呈するほか、全問正解者には別の商品も用意している。問い合わせは同駅（☎0973・72・5535）へ。

（白石宗史）

（大分合同新聞 4 月 17 日付朝刊日田玖珠面）